

(様式第1号)

新規調査研究計画書（全体計画）

調査研究課題	「ダニ媒介性病原体の多項目同時検査法の開発」に関する試験研究
担当者	大澤修一、渡邊颯太、小室慶子、大久保朝香、坪山勝平、絹川恵里奈、 會田未希、本谷匠
計画期間	令和8年度～ 令和12年度 5年間
背景 必要性	当所では、これまでに実施したダニ調査により、県内における日本紅斑熱の原因となるリケッチア・ジャポニカを保有するダニの保有状況を把握した。また、本調査では県内で未発生の感染症の原因となる複数のリケッチア種も確認された。さらに、2023年にダニが保有するオズウイルスによる感染症が世界で初めて発生（死亡例）し、県内にはリケッチア・ジャポニカ以外にもダニ媒介感染症を引き起こす病原体が存在することが明らかとなった。このような多様な病原体が存在する中で、ダニ媒介感染症の原因究明を迅速行うためには、それらを同時に検出する方法が必要である。しかし、現在のところ各病原体の検査法は個別に存在し、同時に検出する方法はない。本県では、日本紅斑熱、オズウイルス感染症などの重篤なダニ媒介感染症が発生していることから、多様なダニ媒介感染症に対応した検査体制の構築が必要である。
目的	県内に生息するダニおよび野生動物において、ダニ媒介性病原体の保有状況を明らかにし、それら病原体を同時に検出できる多項目同時検査法を開発する。
計画内容	① 次世代シーケンサーを用いたダニ媒介性病原体の網羅的解析（R8～R12） 県内のダニおよび野生動物においてダニ媒介性病原体の網羅的解析を実施し、病原体の保有状況を明らかにする。 ② 多項目病原体同時検出法の確立（R9～R12） 保有状況が明らかとなった多様な病原体について、同時に検出できる方法を開発する。 ③ 県民等への結果の情報共有（R8～R12） ダニ媒介性病原体の保有状況を県民等へ広報し、ダニ媒介感染症の早期診断・治療および注意喚起に活用する。また開発した方法を関係機関へ公表する。 特別電源所在県科学技術振興事業補助金を活用予定である。

<p>研究目標 (達成しようとする成果及びその活用方法)</p>	<p>県内で発生しうるダニ媒介感染症を明らかにし、それらの多項目検査法を確立する。ダニおよび野生動物におけるダニ媒介性病原体の保有状況を関係機関と共有することで、ダニ媒介感染症の注意喚起に活用する。また、開発した検査法をダニ媒介感染症の早期診断・治療に活用する。</p>									
<p>所要経費 (概算)</p>	<table border="0"> <tr> <td>経費</td> <td>内訳：旅 費</td> <td>原材料費</td> </tr> <tr> <td>(40,000 千円)</td> <td>需要費 40,000 千円</td> <td>役 務 費</td> </tr> <tr> <td></td> <td>使用料</td> <td>そ の 他</td> </tr> </table>	経費	内訳：旅 費	原材料費	(40,000 千円)	需要費 40,000 千円	役 務 費		使用料	そ の 他
経費	内訳：旅 費	原材料費								
(40,000 千円)	需要費 40,000 千円	役 務 費								
	使用料	そ の 他								
<p>実施上の課題及び対応</p>	<p>野生動物検体を安定的に確保する必要があることから、外部機関に協力を求めることを検討する。</p>									
<p>備 考</p>	<p>令和 8 年度特別電源所在県科学技術振興事業補助金申請中</p>									

(様式第 10 号)

事前評価結果報告書

令和 7 年 9 月 // 日

衛生研究所長 殿

茨城県衛生研究所評価委員会

委員長 木村 博一

(押印又は自署)



調査研究課題	「ダニ媒介性病原体の多項目同時検査法の開発」に関する試験研究
--------	--------------------------------

評価項目	評価	意見	備考
①必要性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	ダニ媒介感染症は病因が多様であり、早期診断及び治療が必要なため、多項目同時検査法の確立は重要である。	
②目的の適合性	5、5、5、5、 5、5、4 平均評価点 4.9	ダニ媒介感染症拡大は喫緊の課題である。多項目同時検査法確立は、ヒト感染の早期診断及び治療に繋がるため大事な開発であり、経験のある担当者が継続して取り組むことが望ましい。	
③計画内容等の妥当性	5、5、5、5、 3、3、4 平均評価点 4.3	これまでの研究で、環境中のダニ、野生動物、感染者に関する豊富な経験があり、関係機関との協力なども含めて、計画は妥当と考える。 ダニ媒介感染症による高齢者での重症例があり、迅速診断の可否により対処方針が変わるため、多項目同時検査法の完成は急務であると考えます。	
④目標の達成及び活用可能性	5、5、5、5、 5、5、5 平均評価点 5.0	これまでの研究実績を考慮すると、達成の可能性は高いと期待する。 また、成果を医療従事者や他県衛研に提供することで、ダニ媒介感染症の注意喚起に活用されることを期待する。	
⑤総合評価	5、5、5、5、 5、4、5 平均評価点 4.9	本研究課題と茨城県内におけるリケッチア保有マダニの浸潤状況の解明を包括的かつ一括化した方が良いと考える。 ダニ媒介性病原体研究については、今までの実績もあり、期間内に優れた成果が出ると期待できる。	
⑥計画実施の評価	A : 6名 B : 1名 C : 0名		
	最終評価 A B C	評価の理由や助言等 (評価「B」の場合は見直しを要する事項)	

評価点 1 : 不良 2 : やや不良 3 : 普通 4 : やや良好 5 : 良好